

2000年度大会(東北)

学術講演梗概集

SUMMARIES OF TECHNICAL PAPERS OF ANNUAL MEETING
ARCHITECTURAL INSTITUTE OF JAPAN

2000

E-1

建築計画 I

各種建物・地域施設 設計方法 構法計画 人間工学 計画基礎

ARCHITECTURAL PLANNING AND DESIGN I

Building Types and Community Facilities

Planning and Design Method

Building Construction System

Human Factor Studies

Planning and Design Theory

社団法人 日本建築学会

日本のホール整備水準に関する一考察
カルフォルニア州南部におけるデータとの比較から

著者・ホール、地域整備、人口当たり施設数、アメリカ合衆国

ホールの整備水準は問えるか？

日本の劇場・ホールが、供給過剰気味であるとの指摘は、バブル期を中心に何度となく語られてきた^a。実際、それら多くは傾聴すべき論述なのだが、具体的指標に基づいて議論を鳴らしているのではなく、ソフトの相対的な貧弱さ・その克服に力点を置いていたように思う。こうした傾向は、量的指標が見出しにくい舞台芸術の特徴に起因するものであるが、施設整備の観点に立つとなんとも居心地が悪く、文化経済の分野における佐々木(1997)らの研究は、システム内部にあってその是非を判定するのではなく、他システムとの比較による解釈が時として実り多いことを教えてくれているが、本稿でもわが国と他地域との整備指標の比較からホール整備について考察してみたいと思う。

日本の舞台芸術施設研究は、長らくヨーロッパ型のモデルを重視してきた^b。一方、KleingaetnerやWatanabeによる研究は、日本はCultural Policyの位置づけが十分でない非ヨーロッパ型に属するとされている(1994)。そこで筆者らは、比較対象として非ヨーロッパ型の文化政策を採用する最大の国、合衆国に着目することとした。

全米第一の劇場都市は言うまでもなくNYであるが、集中が進み、状況が複雑になっているために、第二の劇場都市LA(Davis,1992)を含むエリア、すなわち南カリフォルニア(SC)(Fig. 1)を対象とすることとした。SCは近年発展が目覚ましい地域で、先進的なホールも比較的多い。

^a 例え清水裕之編著(1993) 私たちと劇場、に収録されているホール論(1989-91)の内、かなりのものが、供給過剰を憂う書き出しから始まっている。
^b もちろん、優れた研究(本杉1987, 88, 89, 清水1992等)とその貢献(新国立劇場の設計等)については言うまでもない。

南カリフォルニアのホール整備

LAの舞台芸術関係キーパーソンのヒアリングから、SCにおける最も網羅的な舞台芸術組織組織に関するリストが「The APPLAUSE (1994)」と「Arts Resouce Directory and Art Education Guide (1999)」であること突き止め、そこに載っている施設の記事をひとつひとつ收拾し、データベースを作成した。このデータベースを分析し、日本の整備(清水、小野田、1998)との比較・考察を行う。

データベースの相違

日本の施設一覧に対応する合衆国のもののほとんどは、施設要覧するというより、舞台芸術に関する活動組織の収

正会員 ○小野田泰明*1
同 ジュアルニ・アニタ*2
同 菅野 實*3



Fig. 1. Southern California map

集という観点で作られている。このことは、民間の非営利芸術機関(Not-for-Profit Arts Organization; NPAO)が教育やコミュニティの為に様々な舞台芸術活動を展開し^c、建築的には劇場とは呼びにくい

場でも劇場として機能させている例が珍しくない合衆国での実態とも符合している。

*c: この当りの事情は吉本光弘(1999)らによって報告されている。

SCでの整備状況 (Table 1)

データベースから集計すると、SCには239施設、299ホールが整備されている。全体の半数近くが(125ホール41.8%)、100席に満たない非常に小さなホールであるのが目に付く。舞台芸術上演を目的とする主体がホールを運営して

Table 1. Hall Pattern of Each County in SC (Incl. under 100seats halls)

Hall Numb.	Hall Pattern	County Names							Total	Ratio	
		O	LA	R	SB	SD	S	V			
1 Hall	V	6	75	0	0	2	0	1	84	35.1%	82.4%
	S	6	33	1	1	10	1	2	54	22.6%	
	M	1	14	0	0	3	1	1	20	8.4%	
	L	4	24	2	0	7	1	1	39	16.3%	
2 Halls	VV	0	11	0	0	0	0	0	11	4.6%	12.1%
	VS	1	6	0	0	0	1	0	8	3.3%	
	VM	0	1	0	0	0	0	0	1	0.4%	
	SS	0	2	0	0	1	0	0	3	1.3%	
	SM	1	1	0	0	2	0	0	4	1.7%	
	SL	1	0	0	0	0	0	1	2	0.8%	
3 Halls	VVS	0	1	0	0	0	0	0	1	0.4%	4.2%
	VSS	0	1	0	0	0	0	0	1	0.4%	
	VVM	0	1	0	0	0	0	0	1	0.4%	
	SSL	0	2	0	0	0	0	0	2	0.8%	
	SSM	0	0	0	0	0	1	0	1	0.4%	
	SMM	0	1	0	0	0	0	0	1	0.4%	
	SML	0	1	0	0	0	0	0	1	0.4%	
	MLL	0	2	0	0	0	0	0	2	0.8%	
4 Halls	SSSS	0	1	0	0	0	0	0	1	0.4%	0.4%
5 Halls	VVVVV	0	1	0	0	0	0	0	1	0.4%	0.8%
	SMMLL	0	1	0	0	0	0	0	1	0.4%	
Total		20	179	3	1	25	5	6	239	100.0%	

Note, V;under 100 seats, S;100-499 seats, M;500-999 seats, L;more than 1000 seats, "SM" means the facility having one small and one medium halls.

いること、そしてその運営者の多くが、身の丈にあった経営の中で効果を求めようとしているといった、NPAOの性向がデータにも出ているようだ。

・人口比での比較(Table 1, Table 2.)

比較対象に用いた清水、小野田の調査では、100席未満のホールが対象外であるため、SCのデータベースから100席未満のホールをのぞいた上で(半数近くを占めるのだが...)比較を行った。日本における人口10万人当りの施設数が1.9、ホール数が2.3、千人当りの席数は16.8であるのに比べ、SCは、それぞれ0.8、1.0、7.7と半分以下の値となっている。日本側のデータベースが精緻であることを差し引いてもなお、ホール整備水準に大きな差があると言ってよさそうだ。

さらに、席数規模で比較すると、日本では500席から999席が最も多く、次いで500席未満が続くのに比べ、SCでは半数以上が500席未満で、次に1000席以上が多く、中間的席数は比較的少ない。100席未満にもホールが多いことを考えあわせると、NPAOを中心とした小劇場群、ショービジネスのための大型ホールと、ホール整備が割り切りよくなされていることが伺える。日本で最も多い中規模のホールの多くは、地方に立地し、非舞台芸術の割合がかなり高いものであることを考えると(小野田, 1995)複雑な感がある。

Table 2. Ratio of Halls to Population (over 100seats halls)

Country	Population	Total Building	Total Hall	I	II	III	IV	
County (1994)	O	2,410,556	14	16	5.4	0.6	0.6	813.1
	LA	8,863,164	92	115	10.0	1.0	1.3	805.3
	R	1,170,413	3	3	2.5	0.3	0.3	984.3
	SB	1,418,380	1	1	0.3	0.1	0.1	457.0
	SD	2,498,016	23	26	7.5	0.9	1.0	721.7
	S	369,608	5	7	12.0	1.4	1.9	658.1
	V	669,016	5	6	7.7	0.8	0.9	858.0
Southern California	17,508,456	143	174	7.7	0.8	1.0	790.2	
Japan (96)	125,569,000	2,395	2,883	16.8	1.9	2.3	733.1	

*US population; Sensus 1990

I=(total seat/population) x 1,000

III=(total hall/population) x 100,000

II=(total building/population) x 100,000

IV=(total seat/total hall)

Table 3. Compare on the Seat Capacity (over 100seats halls)

Seat Capacity	Total	(SC)	Total	(J)
100-499	90	51.7%	1,058	36.7%
500-999	34	19.5%	1,078	37.4%
more than 1000	50	28.7%	747	25.9%
Total	174	100.0%	2,883	100.0%

*SC; Southern California, J; Japan

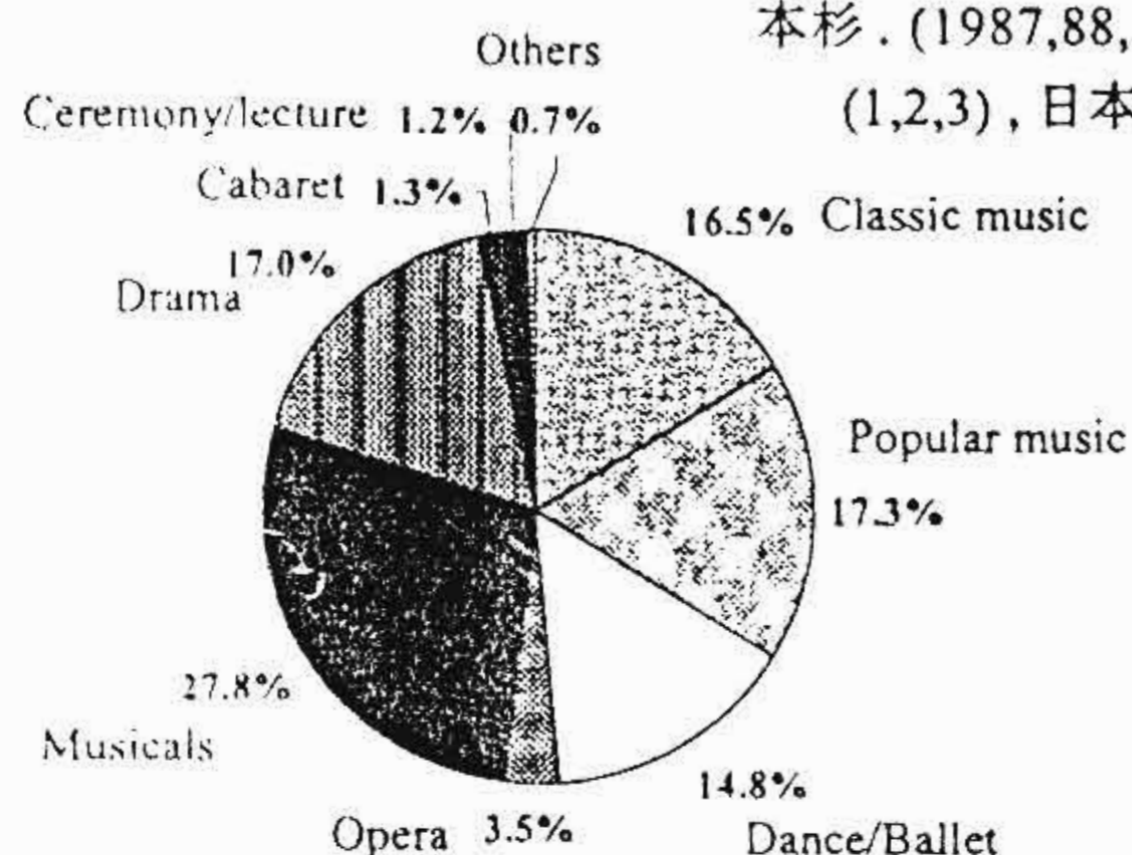


Fig.2 Performances; Average of CC+OC+TO, 1997

・個別のホールの使用状況(Fig. 2)

LA近郊の公的運営主体による舞台芸術施設(CC, OC, TO)の年間の使われ方を見ると、日本で多く見られる大会・講演会がほとんど行われていない。ミュージカルが多いのは如何にもアメリカ的であるが、ハイアート中心のダンスやバレエが比較的多いことも特徴である。

CC(1993); 大規模な客席可変システムを導入、シューボックス型のコンサート(1894席)から、リリック、ドラマ(921席)、そしてバンケット(平土間)にまで多様に変化。

OC(1986); 3000席の大ホールは4つに分割された客席形状(Tier)を持つ。合衆国の公共ホールとしては比較的舞臺裏も充実。ステージと同じ広さの作業場を持つ。

TO(1994); 市庁舎と一体で、駐車場のストラクチャーを共有。1800席の大ホールと400~299席の小ホールが屋外空間を介して併設。

考察

西海岸の若い都市群と、時にホールに過大な集会機能が課せられている日本とを一概に比較することは出来ない。しかしながら、まだ詳細な検討の余地は残されているものの、人口当りの指標で比較する限り、日本において中・大規模のホール施設はすでにかなり高密であるとともに、小規模なスペースの活用の余地がまだあるようにも思われる。

もちろん色々な問題はあるのだが、運営の特性が実際の整備と呼応しているかのようにも見える合衆国の状況は、ある意味で小気味よい。それらは、助成や税制といった社会的枠組みはもちろん、個々の施設が自己責任の原則によって厳しく運営されていることとも関係があるようだ。地域整備は施設の在り様とまさに不分離であると言える。

*d: ケースで選択した3つの施設は市や郡の系列組織が運営する日本と言う公的財団運営に近いが、Executive Managerは皆その分野のプロで(前職は他のホールやNPAOの事務長)ある。CCのExecutive Managerが言うように「情報を集め私が全て決断を下す。この決断を確かにするネットワークを持っていなければ生き残れない」のである。

References

Getty Grant Program. (1999). Arts Resource Directory and Arts Education Guide, Los Angeles: Arts Inc.

Kleingaetner, A., Watanabe, M. (1994). Japanese Background Paper for the Japan/US Comparative Cultural Policy Project 1993-1994

Simon, C. (1994). The Applause Performing Arts Guide to Los Angeles and Southern California, New York: Applause Books

本杉. (1987, 88, 89). ベルリンドイツオペラにおける事例研究を通して(1, 2, 3), 日本建築学会計画系論文集, No.381, 389, 401

小野田, 松本, 菅野 (1995). ホールにおける催事ジャンルの構成からみた文化オール類型, 日本建築学会計画系論文集, No.472

清水, 小野田 (1997). ミクロ統計を活用した舞台芸術施設運営に関する調査研究, 文部省科学研究費

佐々木 (1997) 創造都市の経済学, 勁草書房

吉本 (1999). 芸術活動の底辺を支える米政府機関の文化政策, <http://www.nli-research.co.jp/>

*1 東北大学工学研究科都市・建築学専攻 助教授, 博士(工学)

*2 バンドン, ナショナル工科大学建築学科 助手, 工修

*3 東北大学工学研究科都市・建築学専攻 教授, 工博

Assoc. Prof., Dept. of Architecture Eng., Tohoku Univ., Dr. Eng.

Assoc. Researcher, Dept. of Architecture, Bandung Institute of Technology National, M.Eng.

Prof., Dept. of Architecture Eng., Tohoku Univ., Dr. Eng.